

議 事 録

件 名	第1回あぶくまクリーンセンター焼却工場再整備事業者選定委員会
日 時	令和3年8月10日（火） 13時30分～15時
場 所	福島市市民会館（福島市霞町1-52） 401号室
出 席 者	選定委員 出席 7名、欠席 1名 事務局 福島市職員 計5名 (株)日建技術コンサルタント 2名（アドバイザー業務受託者）
検 討 内 容	
委員長・副委員長の選任	事務局からの提案を受けて、本選定委員会の委員長を樋口良之委員、副委員長を佐藤理夫委員に決定
会議の公開・非公開について	<ul style="list-style-type: none"> ・委員名簿 ・・・公開 ・第1回選定委員会の内容・資料・議事録 ・・・公開 ・第2回以降の選定委員会の内容・資料・議事録 ・・・非公開 ・選定委員会での決定事項 ・・・委員に確認後、承諾を得た内容について公開 ・全選定委員会終了後の情報公開 ・・・最後の選定委員会で委員に確認し、情報公開の範囲を決定
事業概要について（資料2・3）	<p>●（委員） 事業者が行う範囲中の「敷地内の建築物及び建築設備、道路、植栽等付帯施設の維持管理」と、市が行う範囲中の「管理棟の管理」のすみ分けはどうなっているのか。 ○（事務局） 今後検討していく。</p> <p>●（委員） 「電力契約、発電および売電に係る諸手続き」に関して、接続検討はどれくらい進んでいるのか。今後、要求水準書等の作成時に接続検討が分からないと、公募要領が作れないと思うが。 ○（事務局） 内部で検討中である。</p> <p>●（委員） あぶくまクリーンセンターはヘルシーランド福島への熱供給の役割を担っているが、2炉同時停止時の補助熱源は今回の整備事業内容に入るのか。またヘルシーランド福島に送る蒸気の圧力調整などはあぶくまクリーンセンターが行うのか、ヘルシーランド福島が行うのか。 ○（事務局） 2炉同時停止するということは無い想定で、老朽化しているヘルシーランド福島の改修も含めて、今後の選定委員会の中で検討していければと考えている。</p> <p>●（委員） スケジュールが迫ってきている。はっきり方針を決めないと問題になることなので、この数ヶ月で事務局として十分検討を進めることを願う。</p>
今後のスケジュールについて（資料4）	<p>●（委員） 第2回選定委員会で見積仕様書（案）、第3回選定委員会の実施方針（案）・要求水準書（原案）などを決める予定となっているが、それぞれ1回の委員会で内容を決めるのは難しいのではないかと。これらのことを決めるためにあと1、2回程度委員会を追加開催しても良いのではないかと。 もし委員会の追加開催が難しいのであれば、委員に委員会開催の2、3週間程度前に資料の送付、もしくは1つ前の委員会で次の委員会の資料を配付するなどしたうえで、委員会開催前に委員から質疑、意見等を収集しておくなどの配慮が必要かと思われる。</p>

	<p>○（事務局） 今回、全8回で今後のスケジュールを提案させていただいたが、必要があれば開催回数は変更する。また事前の資料配付に努めるなどの対応を検討していきたい。今後も選定委員会の進捗を見ながら、委員長、委員の意見を伺いながら対応を検討していきたい。</p> <p>●（委員） 入札公告で入札参加資格を提示するが、入札参加資格は見積依頼の時点でおおむね定めておいた方がよい。入札参加資格が無い事業者に見積りを依頼すると、混乱の元になるかもしれない。</p> <p>○（事務局） 入札参加資格についても、第2回選定委員会で提示させていただく。</p> <p>●（委員） 競争的対話の主体は選定委員会ではなく市となる。競争的対話は対面でやった方がよい。対面でやることで市と事業者双方の理解が深まる。 また、競争的対話には選定委員もオブザーバーとして参加した方がよい。委員の理解も深まるし、採点者である委員が参加することで事業者も発言に注意するようになる。</p> <p>○（事務局） 意見を取り入れたうえで競争的対話の実施方法を検討させていただく。</p> <p>●（委員） 委員会と委員会の間が空いてしまうところがある。前の委員会の内容を忘れてしまい、スムーズに議論が進まない可能性がある。何らかの配慮をお願いしたい。</p> <p>○（事務局） 了解した。</p> <p>●（委員） 事業者の募集及び選定方法について、一般競争入札/総合評価方式が望ましいと言われていたが、諸般の理由から総合評価プロポーザル方式で行うケースが増えている。このような入札方式の検討はどの段階で行うのか。</p> <p>○（事務局） 早ければ第2回選定委員会、遅くとも第3回選定委員会までに事務局で検討し、案を選定委員会に提案したい。</p> <p>●（委員） 第5回選定委員会の参加資格審査結果の確認とは、結果を確認するだけか。参加資格審査の可否は事務局で確認済みという理解で良いか。</p> <p>○（事務局） その通り。</p> <p>●（委員） 事業運営状態のモニタリングを事業者任せにすると、的確で客観的な情報の共有が不十分となる傾向がある。モニタリングの独立性を担保する方法は、福島市が十分に事前に検討すべき。</p> <p>○（事務局） 了解した。</p> <p>●（委員） 第7回選定委員会でヒアリングの方法について話し合い、第8回選定委員会では非価格要素審査、ヒアリングを実施する予定となっている。適切なヒアリング及び審査を実施するため、第7回・第8回選定委員会の間にも委員会を1回追加開催した方がよいと思う。 またヒアリングの採点についても、やはり色々な専門があるので、委員によって採点の仕方に大きな差異が出てしまうかもしれない。どの委員が何点付けたなどは分からないようにしながらも、仮評価のような形でどの程度の評価がされているのか、自分がおかしな点数の付け方をしていないかどうか、振り返りのようなものができた方がよいかもしれない。点数を調整するわけではなく、委員の理解を深めるために、そういったものの実施も検討していただきたい。</p> <p>○（事務局） 委員の意見を考慮し、開催した方がよいのであれば開催する。</p>
<p>その他 (第2回選定委員会 開催日程について)</p>	<p>○（事務局） 10月を予定している。後日調整のうえ、各委員に連絡する。</p>